「タスク(TBLT)」と「練習(PPP)」は何がどう違うのか？

―ISLA研究から見た英語を「使う」ための授業デザイン―

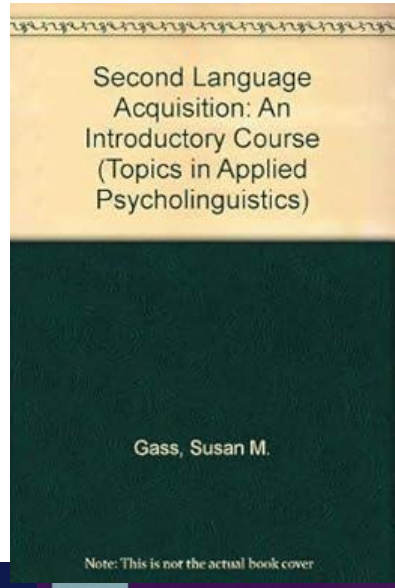
鈴木祐一
（早稲田大学）

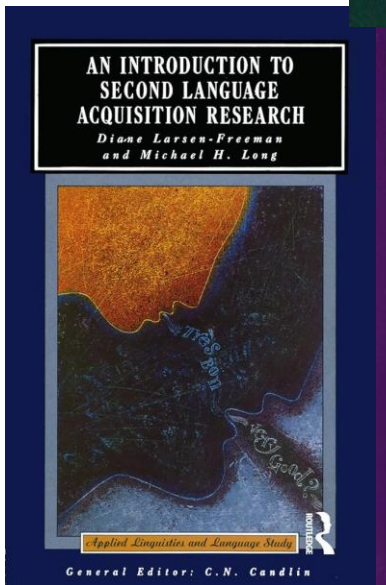
第二言語習得（SLA）研究とは？

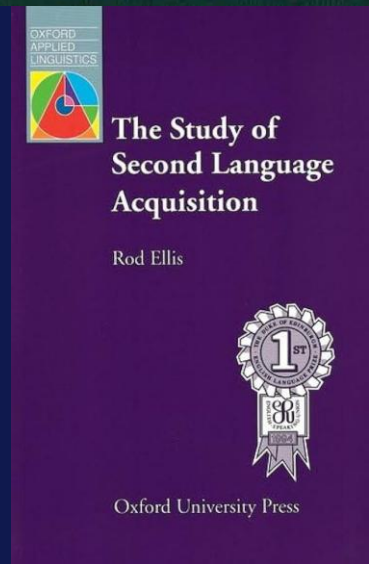
1960年代に欧米で生まれた研究領域

第二言語のメカニズムを実証的・科学的に解明する

- 移民（子ども・大人）/ESL
- 母語習得と第二言語習得はどう違うのか？
- インプット、インタラクション、アウトプットの役割

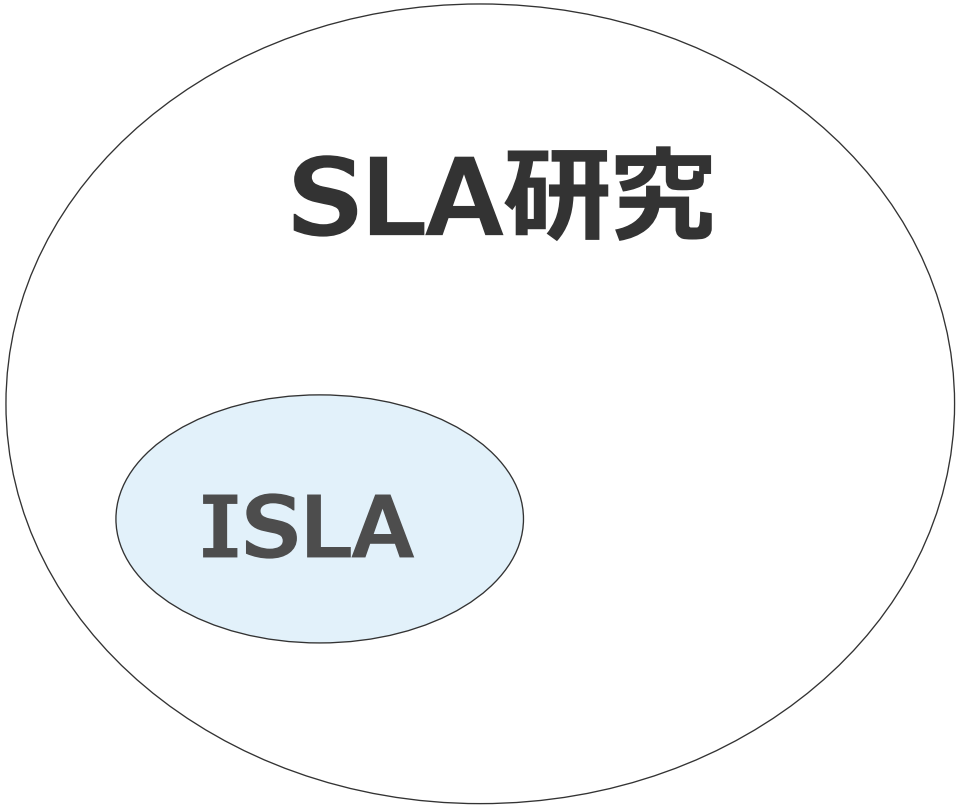






SLA研究はどう発展したか？

1990年代以降
教室場面におけるSLA
＝**Instructed SLA (ISLA)**への広がり

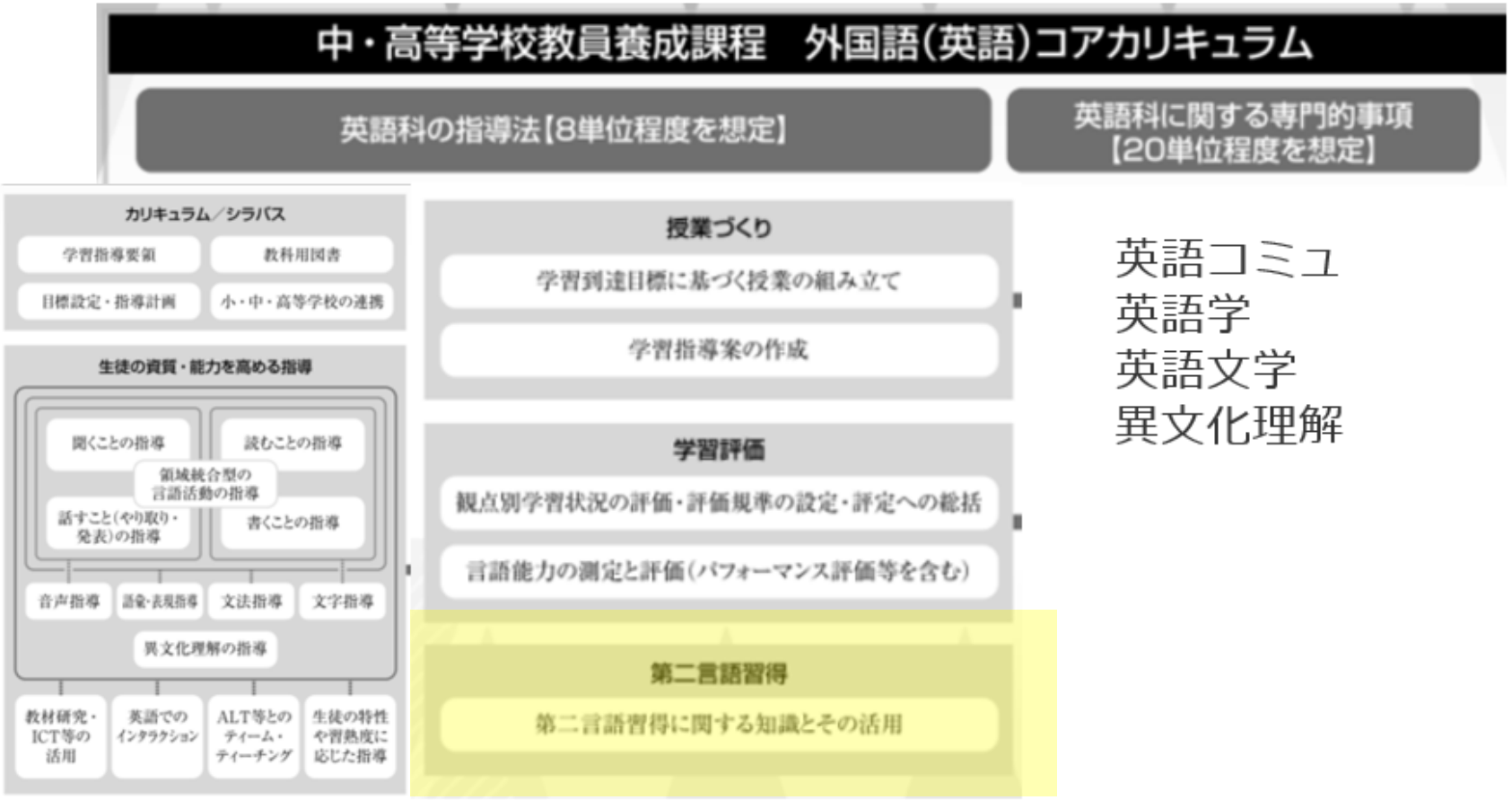


- 外国語教育を受ける生徒・学生
- 指導効果
- 生徒の個人差への対応
- 教育心理学・認知心理学の影響

ISLA研究と英語教育の関係

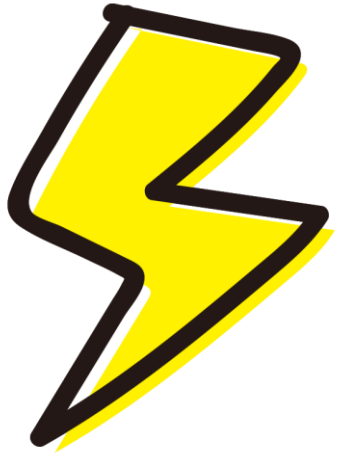
2017年
学習指導要領

2019年
英語教員養成コアカリキュラム



英語コミュ
英語学
英語文学
異文化理解

鈴木の最近の問題意識

研究・理論  授業・実践

研究と実践は無関係？

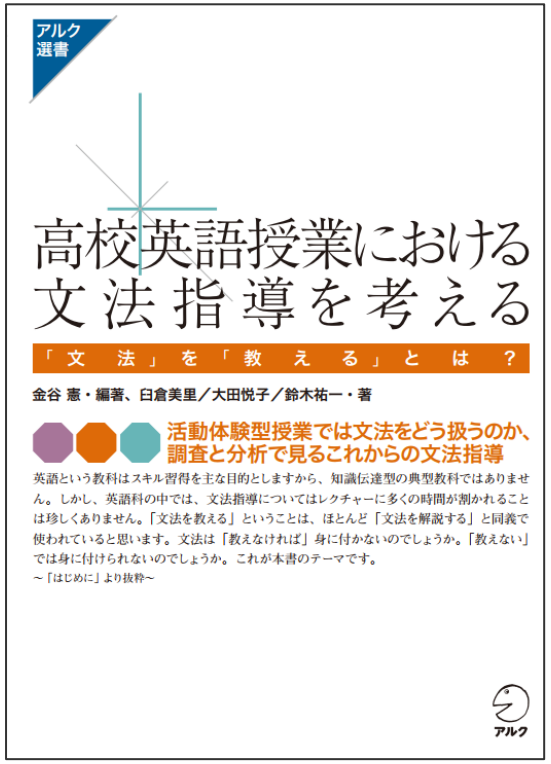
最近の取り組み

研究と実践の橋渡しをしたい

英語教師向け

日本の中高における先駆的な文法指導について調査。

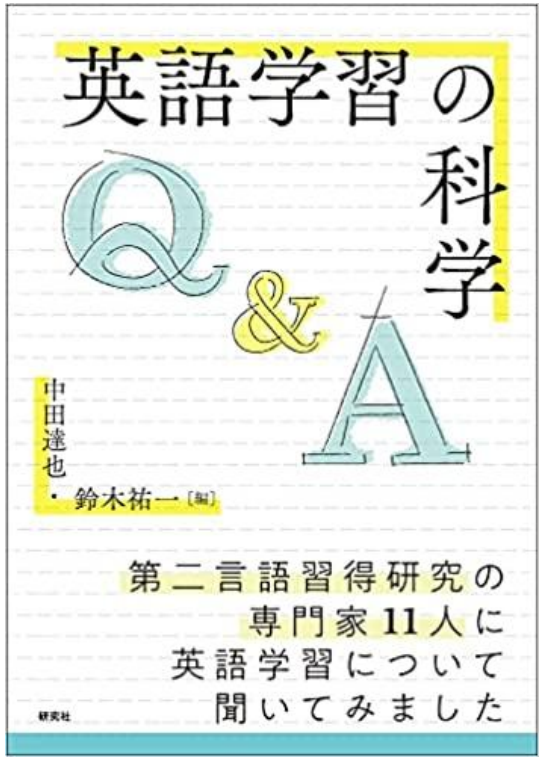
2020年



英語学習者向け

英語学習に纏わる日頃の疑問にSLA専門家が答える。

2022年



英語教育関係者向け

英語教育 x 指導場面での ISLA研究

2024年 10月

あたらしい第二言語習得論: ISLA研究

第1部　言語知識とスキルの指導法
- 第1章　文法指導
- 第2章　語彙指導
- 第3章　発音・語用論指導

第2部　学習者中心のアプローチにおける教師の役割
- 第4章　インタラクションと協同学習
- 第5章　訂正フィードバック
- 第6章　認知・非認知能力の個人差
- 第7章　学習者心理の個人差

第3部　SLA 研究に基づく指導法とカリキュラム設計
- **第8章　言語形式重視の指導法：PPP**
- **第9章　意味重視の指導法：TBLT**
- 第10章　学習開始年齢と指導法: 小英/CLIL/カリキュラム

8章・9章: コミュニカティブ・アプローチ (CLT)

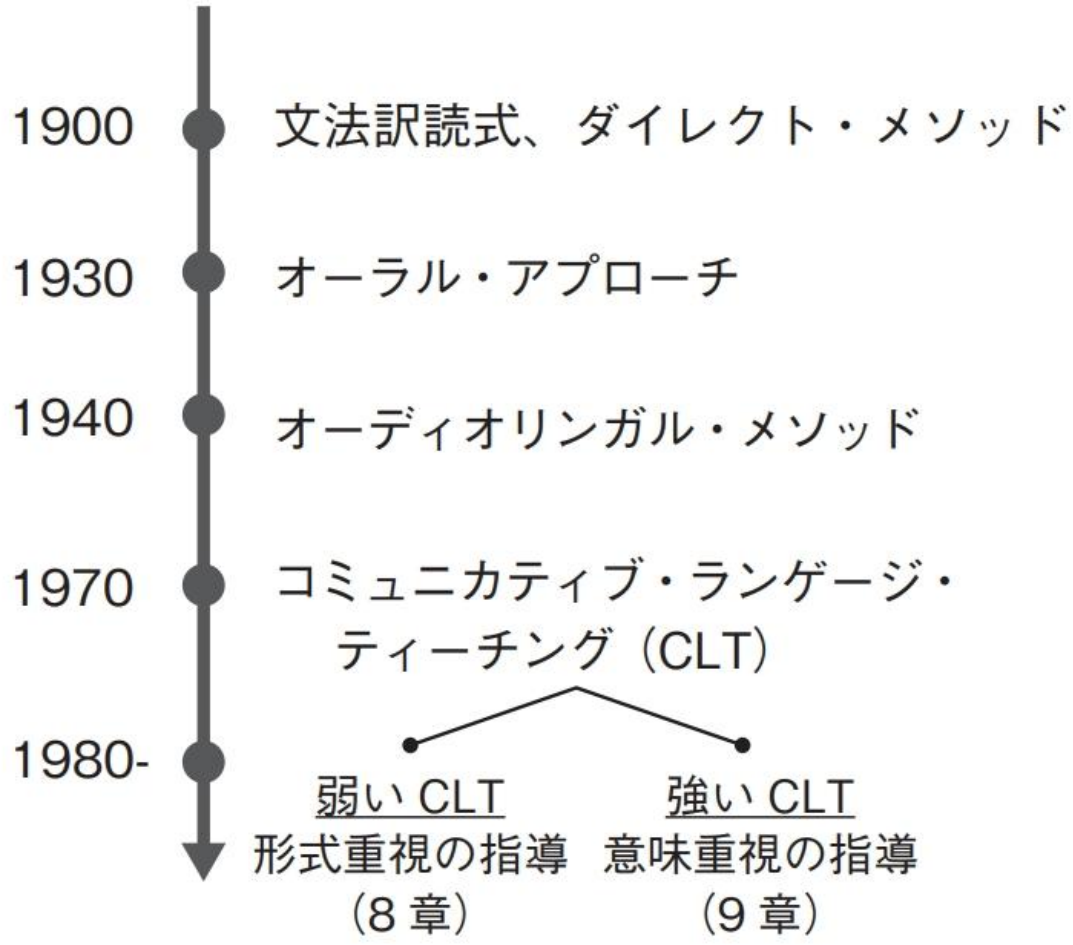


図 8.1　外国語指導法の変遷

CLT=英語を使うことを重視

強いCLT
使いながら学ぶ
TBLT (Task-based Language Teaching)

弱いCLT
学びながら使う
PPP (Presentation-Practice-Production)

本講演の目標

1. 英語を使うためのPPPとTBLTという指導法の「理論」を理解する。
2. PPPとTBLTが、日本の英語教育でどう具体化されているか「実践」を理解する。
3. ISLA研究の観点から、「理論」と「実践」の繋がりを探り、英語授業の改善に活かせるようになる。

ISLA研究から見た
英語を「使う」ための授業デザイン

1.TBLTとは

2.PPPとは

3.まとめ

コミュニケーションタスクを中心に据えた指導法

タスク・ベースの指導
(**TBLT:** Task-based language teaching)

コミュニケーション・タスク（言語活動）を通して、
英語を使いながら身につける英語指導法の一つ

Jane Willis

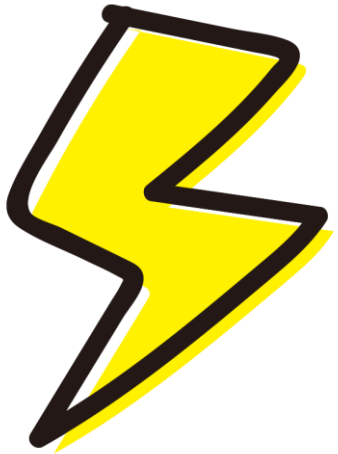
Rod Ellis

Mike Long

ISLA研究を、英語授業を改善に活かすヒント

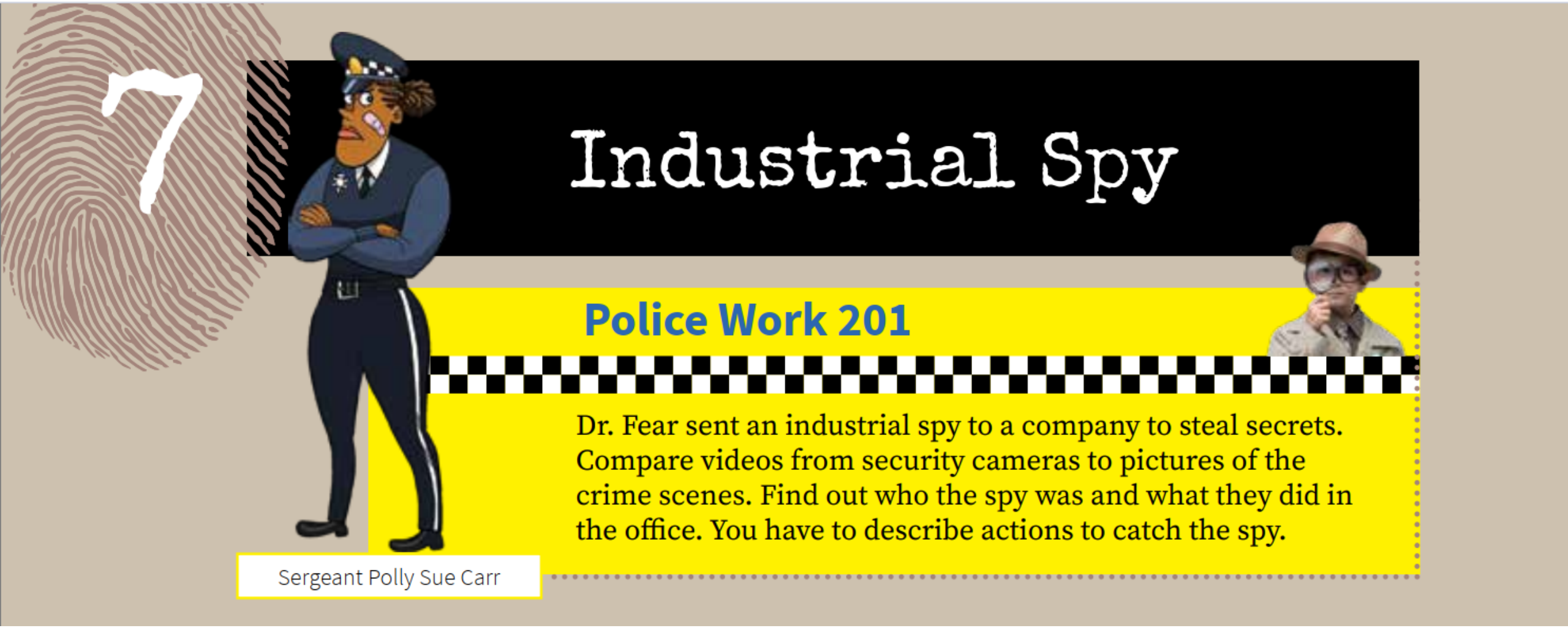
教材

研究・理論



授業実践

実際に「タスク」を体験してみよう！

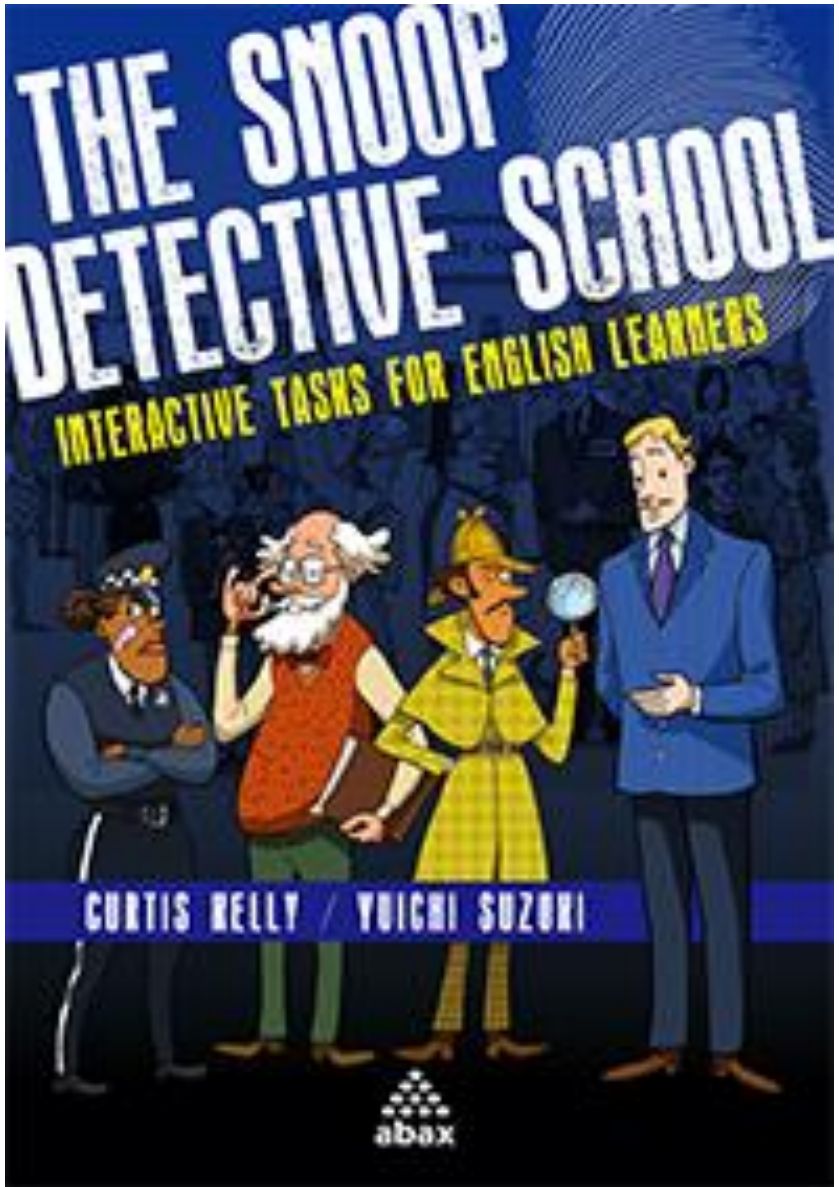


タスク・ベースの教科書の例

Kelly, C. & Suzuki, Y. (2025). *The SNOOP detective school : Interactive tasks for English learners*. ABAX.

Curtis Kelly
Kansai University (30 years)

Yuichi Suzuki
University English Teacher
(10 years)



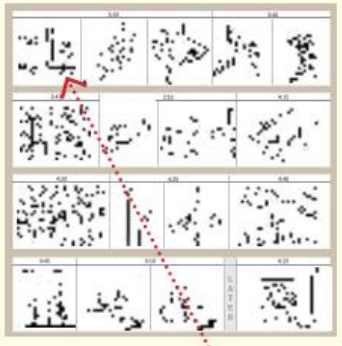
How to do the Field Work: Describing events

Now, here is the information on how to start the Field Work.

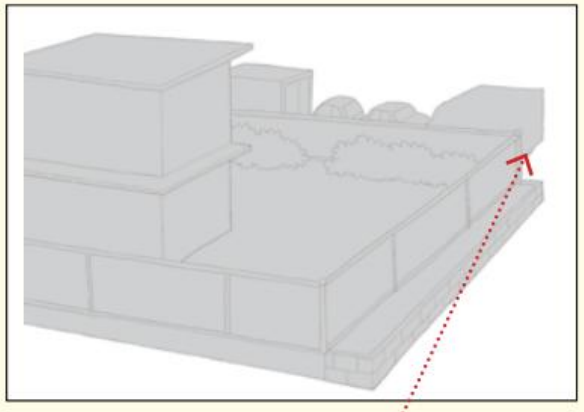
But if you need to practice first, do the listening and speaking tasks on pages 36 and 37. Then come back here.

Detective **A** Look at page 71. You can see the security camera video.

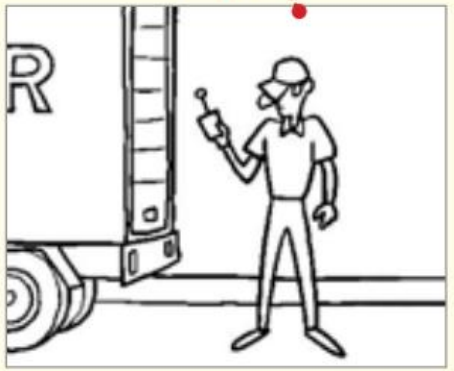
Detective **B** Look at page 96. You can see the back of the office building.



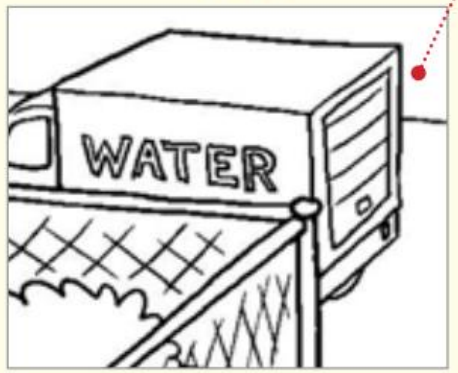
Mark when, where and what the spy does.



3:35



3:35



[著作権のため削除]

TBLTの背景にある学習原理・SLA理論 (Long, 1996, 2015)

1. 「使いながら学ぶ(learning by doing)」
2. やりとり（インタラクション）から英語を学ぶ
3. タスク・コミュニケーションが「先」

Mike Long

TBLTの背景にある学習原理・SLA理論 (Long, 1996, 2015)

1. 「使いながら学ぶ(learning by doing)」
2. **やりとり（インタラクション）から英語を学ぶ**
3. タスク・コミュニケーションが「先」

インタラクションで何が身につくの？

SLA研究では、**インタラクションを通して、語彙・文法知識も発達する**ことが明らかになっている

具体的には？

リキャスト（生徒の発話を、教師が正しく言い換えてあげること）によって気づかせる

Student: I go to cinema yesterday.
Teacher: Oh, you went to cinema.

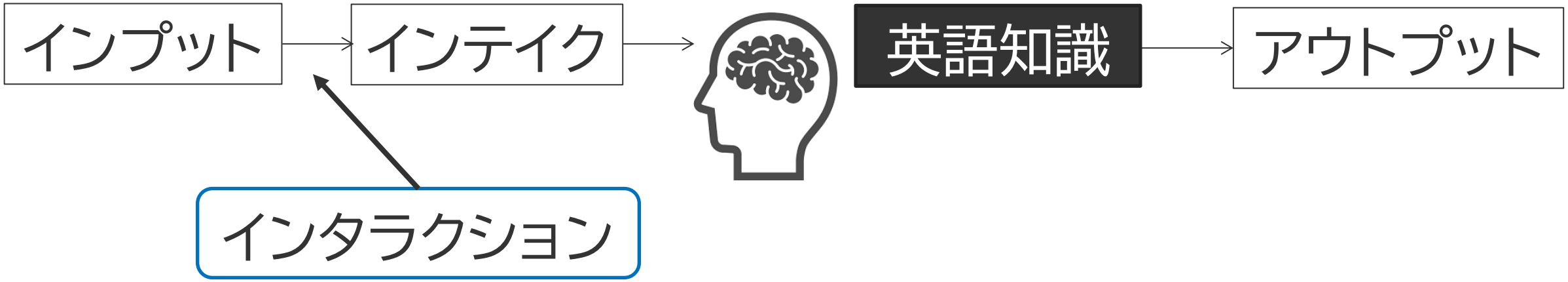
なぜインタラクションが英語習得に繋がるか？

理解可能なインプットを増やすことができるから

インプット → インテイク → **英語知識** → アウトプット

理解可能なインプット
言語習得のエッセンス

なぜインタラクションが英語習得に繋がるか？



<u>インタラクションの効果</u>

- インプットが<u>理解</u>できるようになる
- 文脈の中で、新しい表現へ気づきを促す
- 興味・関心を引くことができる

TBLTの背景にある学習原理・SLA理論 (Long, 1996, 2015)

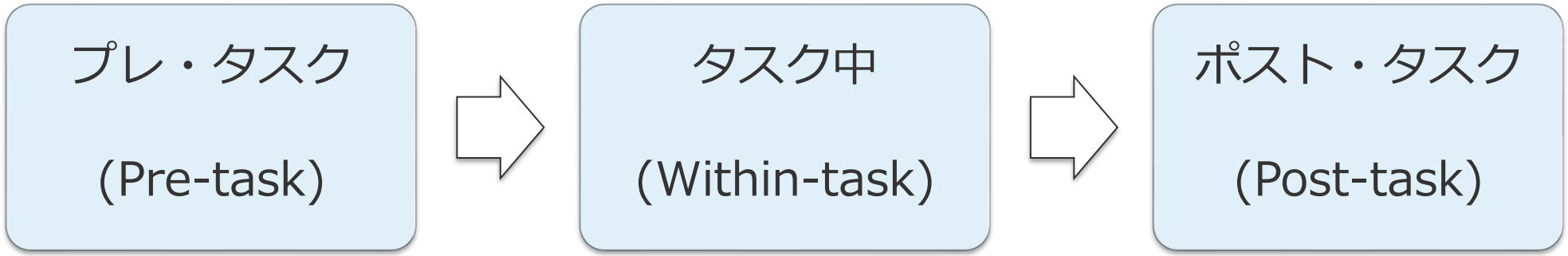
1. 「使いながら学ぶ(learning by doing)」
2. やりとり（インタラクション）から英語を学ぶ
3. **タスク・コミュニケーションが「先」**

Mike Long

先に文法・表現を教えない

「英語は必ず正しく話さなければならない」という
染み付いた意識を学習者から取り外すことができる可能性

TBLTの基本手順と教師の役割とは？



- タスクへの興味関心を喚起する
- タスク活動を実演する

- 机間巡視して、適宜フィードバックする

- モデルを与える
- 生徒に共通するエラーについて、フィードバックする
- タスク中に出てきた言語形式の問題点を補うための練習
- 録音を聞き直して書き起こす
- タスクを繰り返す

今まで多くの人が受けてきた英語授業

提示
(Presentation)

→

練習
(Practice)

→

発信
(Production)

- ターゲットの文法や語彙を教える

- ワークブック・ドリルで文法や語彙を定着するための練習をする

- ターゲットの文法や語彙を使ってコミュニケーションタスク

何が違う？何が同じ？

TBLT

今まで多くの人が受けてきた英語授業 (PPP)

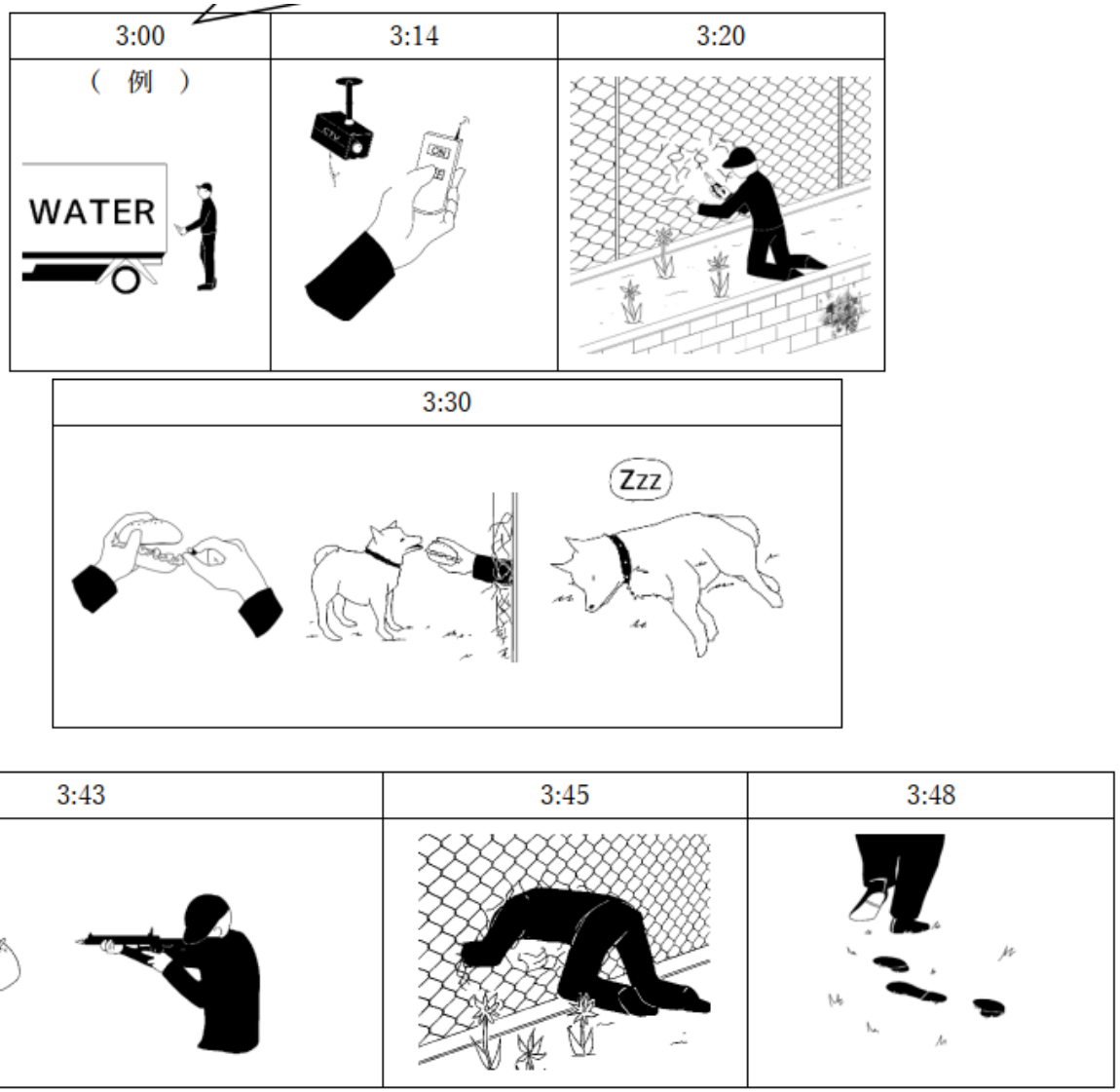
Question

「タスク」を通して、**言語材料（語彙や文法）**や
言語使用の正確性を高めるには、
本当に**先に**教えてはいけないのか？

先に明示的な文法・語彙指導は行うべきではない (e.g., Rod Ellis & Mike Long)

語彙指導を先に行うことは効果的なタスク前の準備になる
(e.g., Jane Willis & Nobert Schmitt)

先に語彙・コロケーションを教える？



実際に先に単語を学ばせてみると・・・？

Industrial Spy Task

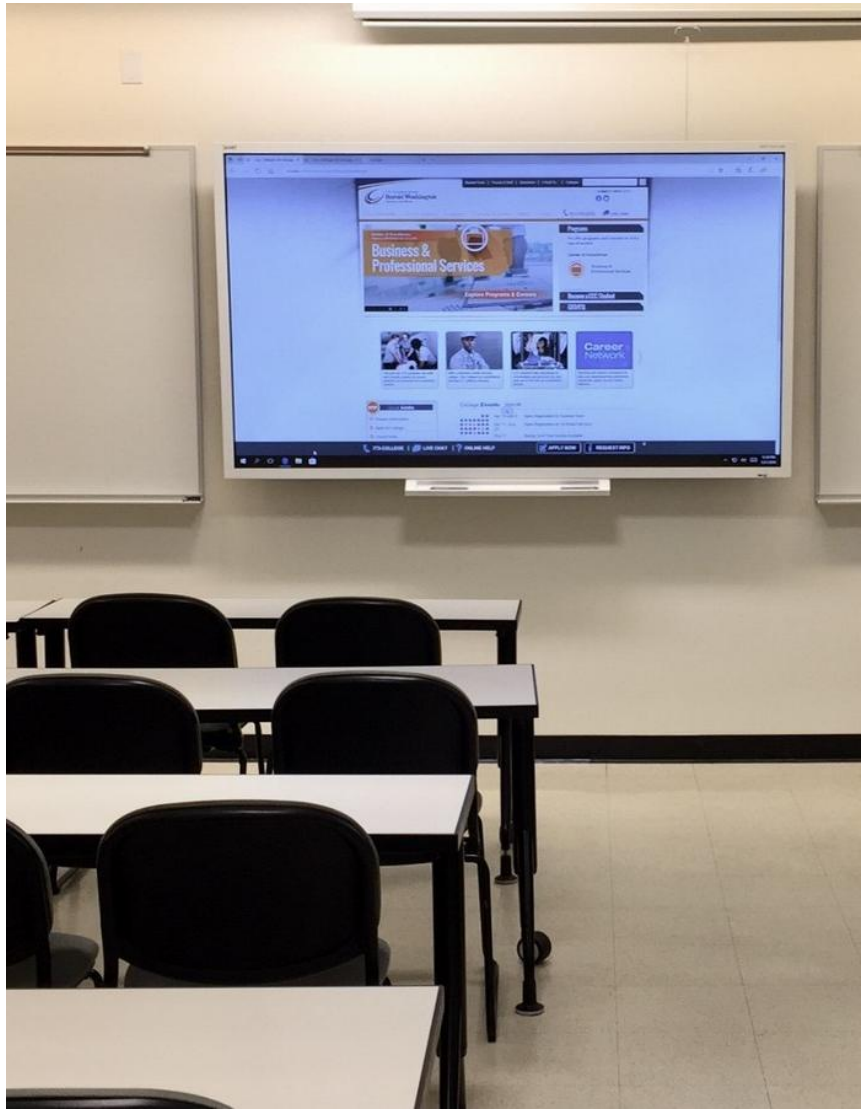
表現リスト

このタスクを遂行する上で役に立つ『表現リスト』です。
必要に応じて、表現リストを参照しても構いません。

はしごを登る	climb up a ladder
薬を入れる	put a drug
銃を撃つ	shoot a gun
防犯カメラの電源を切る	switch off a security camera
ワイヤーを切る	cut a wire
窓から侵入する	enter through a window
穴を開ける	make a hole
足跡を残す	leave footprints

大学での一般英語の授業

Classroom research

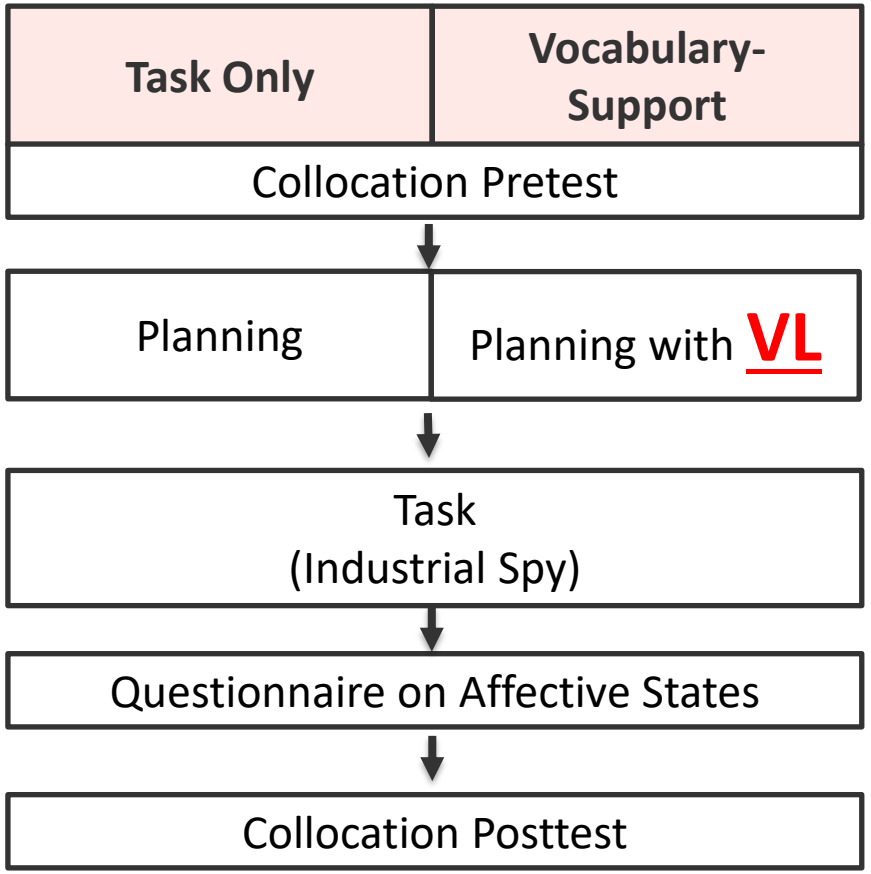


学習条件の比較：

- 単語リストなし (Task Only)
- 単語リストあり (Vocab-Support)

効果測定：

- 語彙習得
- 学習者心理
  - 感情(enjoyment, pride, anxiety, etc.)



教室実験での結果

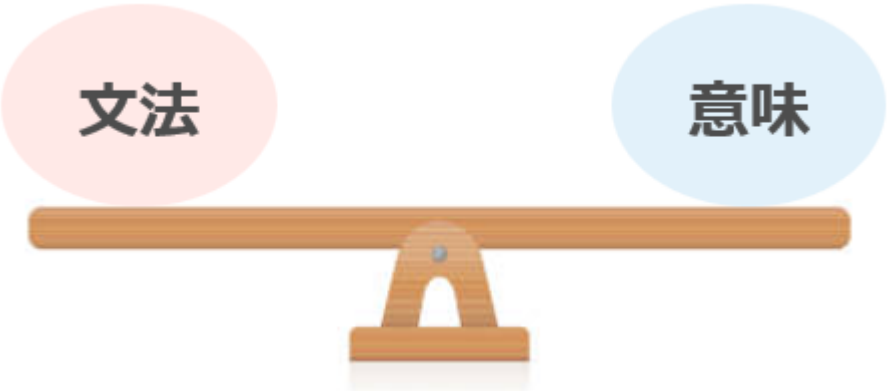
- 単語リストで練習を**先に**行うと語彙習得が進む
- **単語リストなし**でタスクに取り組むと
  1. **タスクへの取り組み：**意味のやり取りが増えた
  2. **アンケート・インタビュー結果：**
     - ポジティブな感情が上がる(enjoyment, pride, perception of partner collaborativeness)
     - ネガティブな感情が下がる(anxiety, boredom)

語彙学習と学習者心理のトレードオフがある

先に**文法**を教えると？

流暢さが伸びにくくなる可能性がある(Ellis et al., 2019)

本来の理想的な状況
（高度な英語力が身についた時）



文法を先に
教え込みすぎると・・・

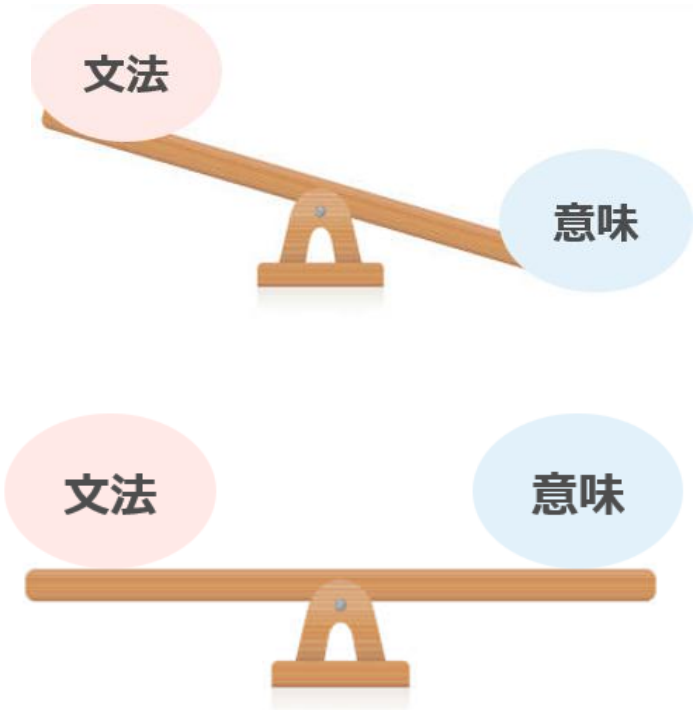
なぜ先に教えすぎると良くないのか？

意味（内容）と文法（形式）に同時に注意を向ける余裕がないから

まず英語でコミュニケーションさせてみる

↓

文法形式を**後で**教える



(反応的)フォーカス・オン・フォーム(Focus on Form)
まず伝えたいことを話してもらい、エラーが出たときに文法に注目させる

TBLTの背景にある学習原理・SLA理論 (Long, 1996, 2015)

1. 「使いながら学ぶ(learning by doing)」
2. やりとり（インタラクション）から英語を学ぶ
3. タスク・コミュニケーションが「先」
4. **Focus on formによって、文脈の中で言語形式にも注意を向けさせる**

上記の原則がうまく適応できるかは、文脈（教室）によって大きく変わる。

・生徒の英語力
・教材・タスク
・クラスサイズ（e.g., フィードバック方法）
・教師のクラスマネージメント　などなど

ISLA研究から見た
英語を「使う」ための授業デザイン

1.TBLTとは

2.PPPとは

3.まとめ

振り返りQuestion

日本の高校での英語授業について考えてみよう。
検定教科書を使って、「コミュニケーションタスク」を中心にして教える時に問題になることは何でしょうか？

高校の英語授業環境(教材・教師・生徒)

- 検定教科書の分量が多い
- 題材が崇高(社会問題、グローバル問題、SDGs)
- リーディングのための英文になっている傾向があり、発表時間のための授業時間が足りない（1課8時間）
- 生徒の英語力
- 教師の英語力

どのような教育管渠うでも、TBLTがベストか？

TBLT

TBLTの効果検証に関するメタ分析の結果も、決着は全くついていない
(Boers & Faez, 2023 “No, we’re not there yet.”)

Presentation-Practice-Production (PPP)は、古い「終わった」指導法なのか？

提示
(Presentation)

→

練習
(Practice)

→

発信
(Production)

- ターゲットの文法や語彙を教える
- ワークブック・ドリルで文法や語彙を定着するための練習をする
- ターゲットの文法や語彙を使ってコミュニケーションタスク

<u>欧米のSLAの教科書（洋書・翻訳書）</u>
PPPは「伝統的指導法」で効果的ではないので、TBLTアプローチを取り入れるべき

PPPの解釈をもう少し広くしてみたら、どうなる？(村野井, 2006)

提示
(Presentation)

→

練習
(Practice)

→

発信
(Production)

- **目的・場面・状況や文脈の中で、様々な語彙・表現に触れさせる**
- **音読やシャドーイングをして記憶に定着させる**
- **練習した表現を活用して、コミュニケーションさせる**

8章・9章: コミュニカティブ・アプローチ (CLT)

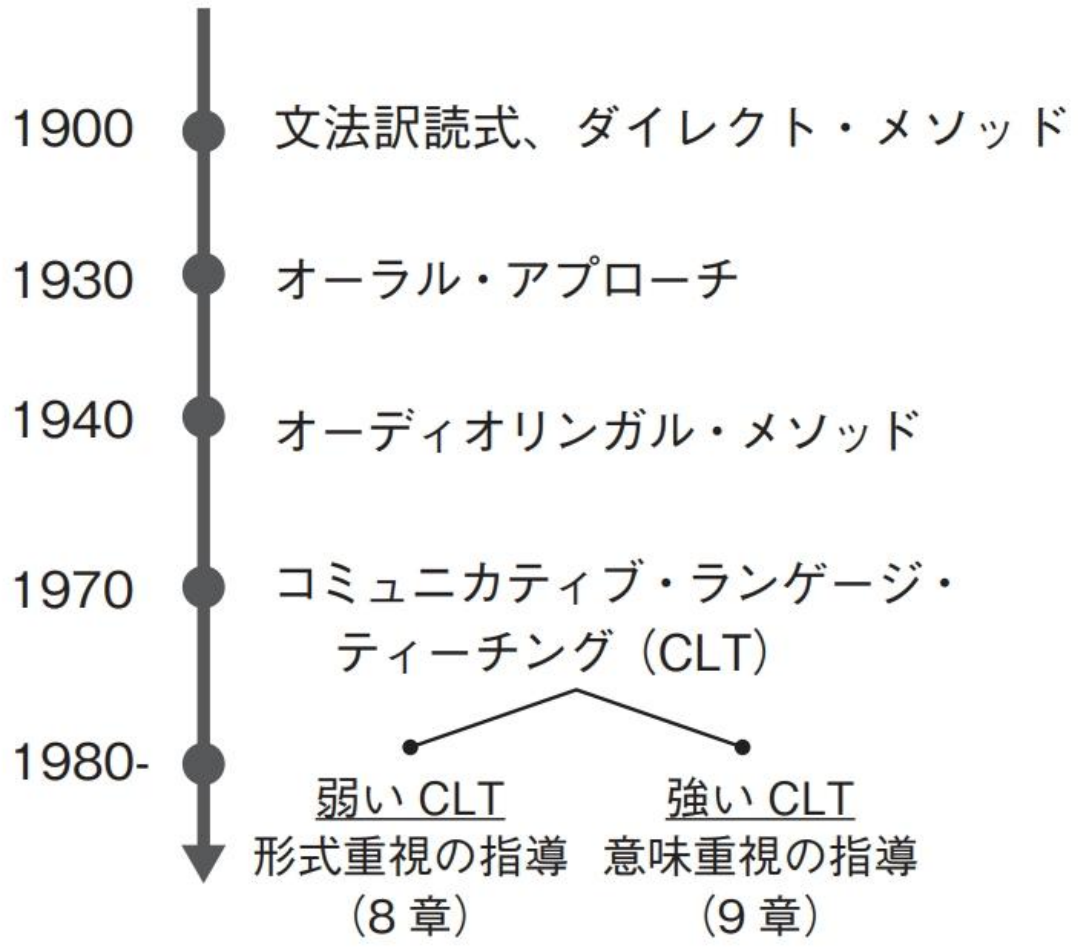


図 8.1　外国語指導法の変遷

TBLT：使いながら学ぶ
PPP：学びながら使う

<u>欧米・洋書の説明</u>
伝統的なPPPから、革新的なTBLTへ発展。
→研究者による、単純化した「(穿った)歴史観」。

<u>日本の英語教育</u>
PPPが役立つ教室が、日本中にあるはず　※日本以外でも!

何が「あたらしい」か？

- 日本の英語教育の教室を念頭に、ISLA研究の成果を解釈し直して提示

<u>主張</u>

効果的な教育は、**文脈（教室）**によって大きく異なる。

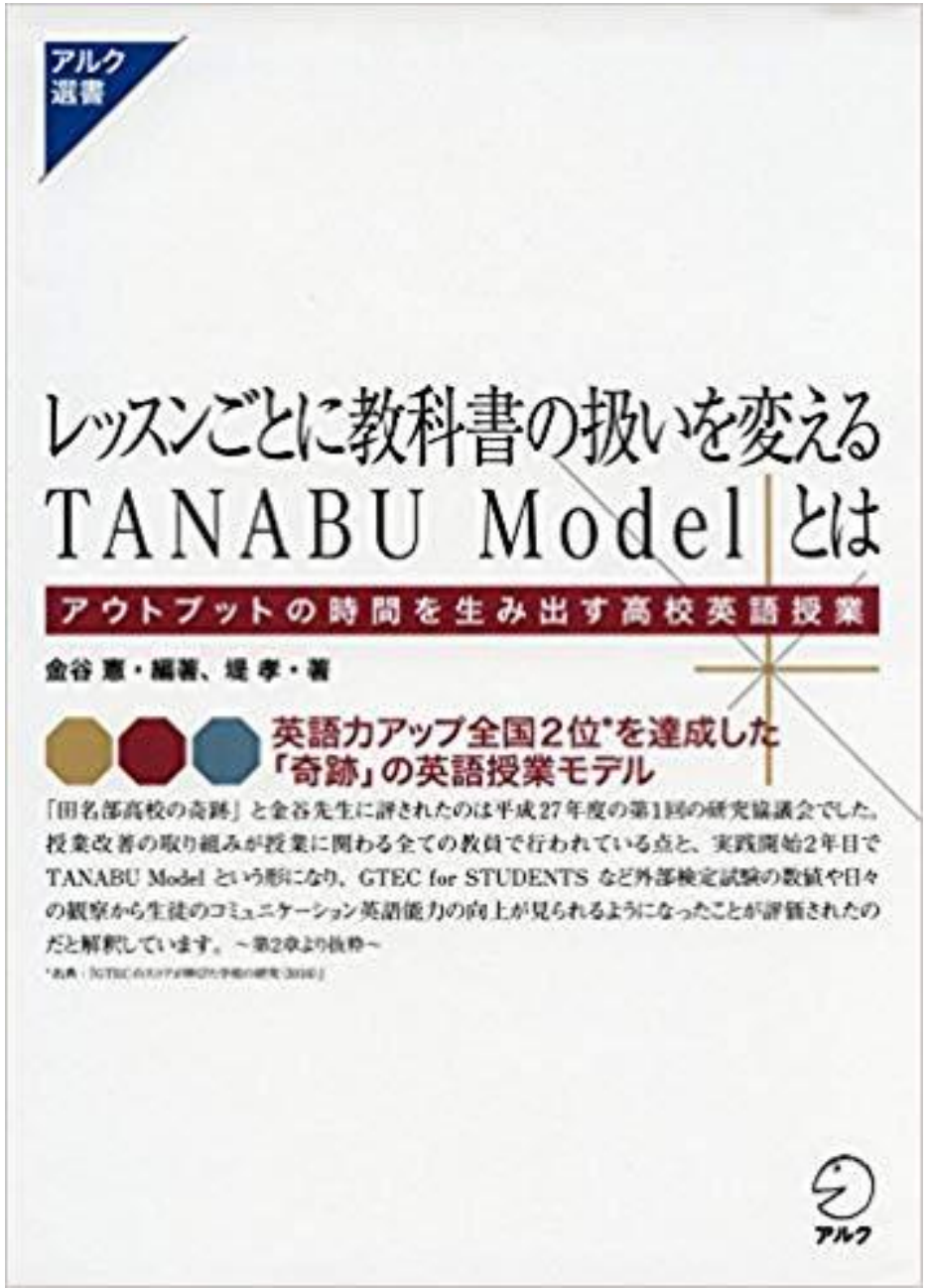
→高校でのPPPの一例

PPP:日本の高校での新しい取り組み

TANABUモデル
青森県立田名部高校

教科書の扱い方にメリハリをつけて、4技能をしっかり使わせる

▶英語力の伸びが全国２位
▶全国規模で広まってきている



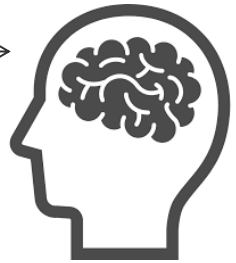
[著作権のため削除]

TANABUモデル（PPP）と生徒の頭の中で起こっていること

指導手順：PPP

Presentation 提示・理解	Practice （練習）	Production （発信）

生徒の英語習得プロセス

インプット → インテイク →  英語知識 → アウトプット

「練習」って何？　コミュニケーションと何が違う？

意味をすでに理解している表現・文法をより正確かつ流暢に使えるようにする

例）単語カード、音読、シャドーイング、リテリング

練習のねらい

- 使える知識に変える・**自信をつける**
- アウトプット活動にもじっくりと取り組み、**覚えた表現が徐々に学習者自身の言葉になるように導く**ことが大切

※練習で決して終わってはいけない。

【TBLT】“タスク”「自分の言葉でコミュニケーションする」
【学習指導要領】　言語活動(英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う)

PPP(TANABUモデル)の特徴

活動順序

授業計画

Presentation (提示)・Comprehension（理解）

①Paragraph Chart（概要理解）
②Summary Sheet（要約）
③Comprehension sheet（詳細理解）

Practice (練習)

Practice (練習)とは？
＝ Production（言語活動）を充実させるための手段

⑦Reproduction sheet（リプロダクション）

Production (発信)

⑧題材　　ピックに関する発表活動
ディベート、ディスカ

Focus on Form

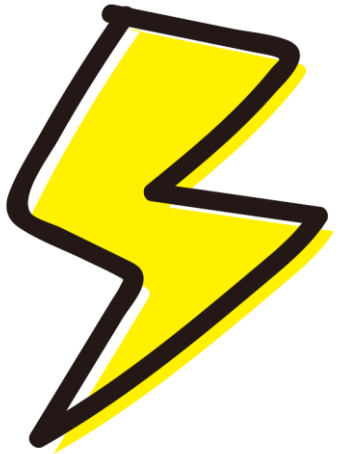
・多様な英語表現を活用
・正確さ・流暢さ
・内容へ意識を向ける
・エンゲージメント

もっと具体的に知りたい人は

ISLA研究を、英語授業を改善に活かすヒント

授業の型(モデル)

研究・理論

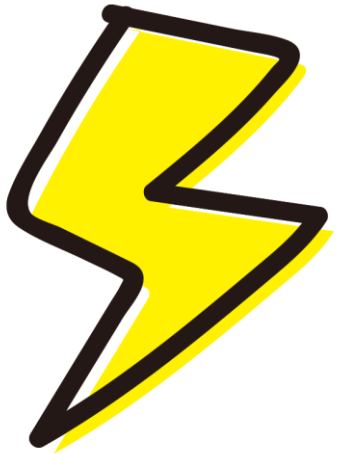


授業実践

ISLA研究を、英語授業を改善に活かすヒント

教材

研究・理論



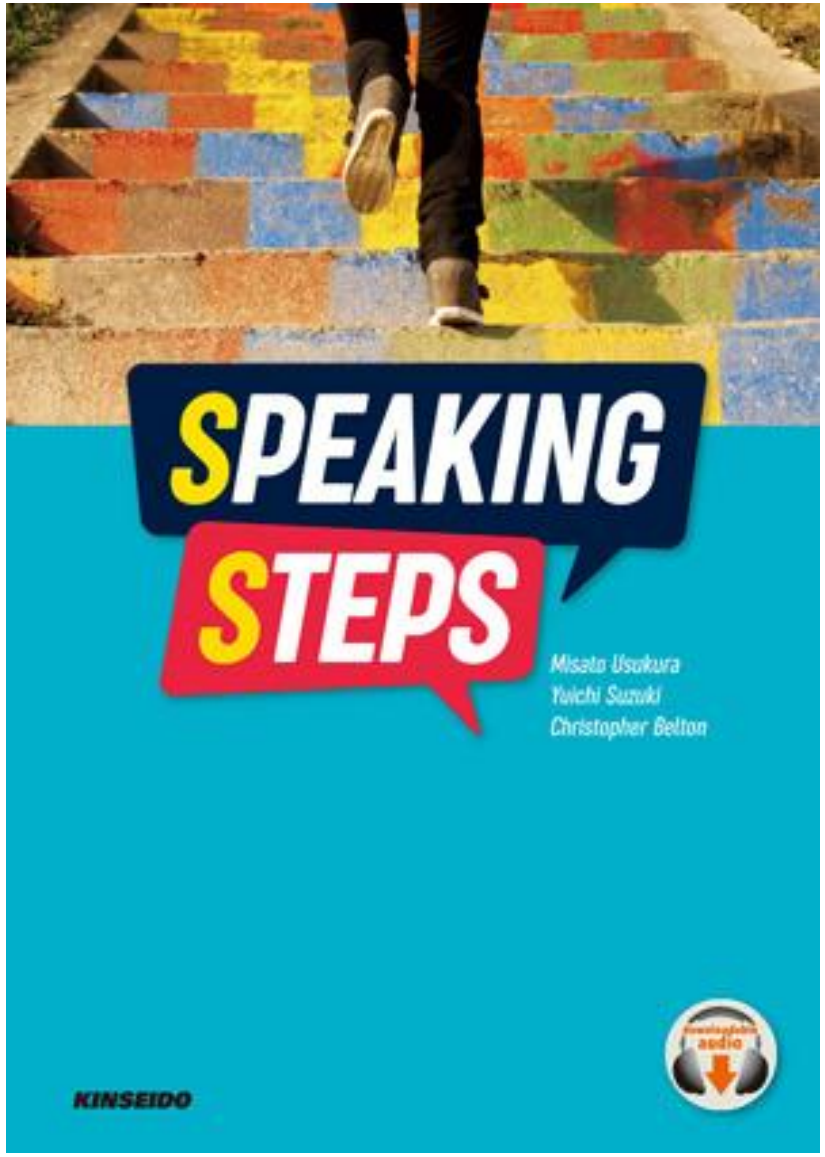
授業実践

PPPの教科書の例 (2022年)　主に高校・大学用

臼倉美里・鈴木祐一 (2022). Speaking Steps: 英語を話すための3ステップ.金星堂.

臼倉美里
(東京学芸大学)

鈴木祐一
(当時: 神奈川大学)



Speaking Stepsの実例

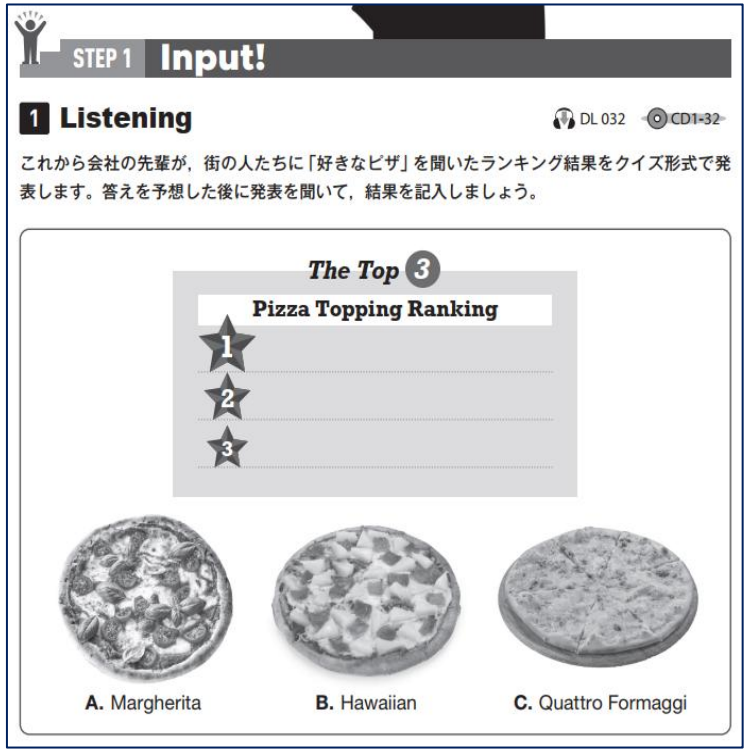
提示
(Presentation)

→

練習
(Practice)

→

発信
(Production)



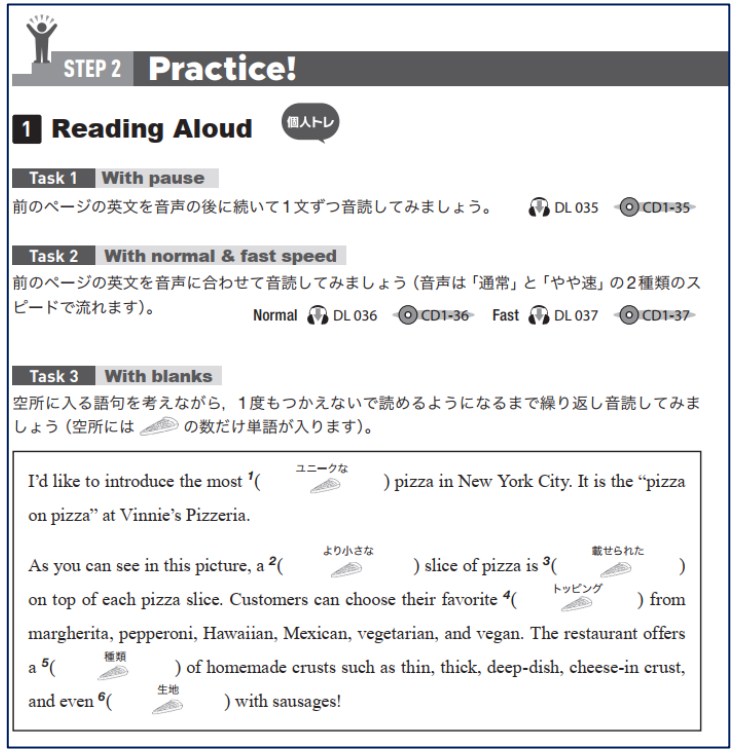
STEP 1 Input!

1 Listening　DL 032　CD1-32

これから会社の先輩が，街の人たちに「好きなピザ」を聞いたランキング結果をクイズ形式で発表します。答えを予想した後に発表を聞いて，結果を記入しましょう。

The Top 3
Pizza Topping Ranking
1
2
3

A. Margherita　B. Hawaiian　C. Quattro Formaggi



STEP 2 Practice!

1 Reading Aloud　個人トレ

Task 1 With pause
前のページの英文を音声の後に続いて1文ずつ音読してみましょう。　DL 035　CD1-35

Task 2 With normal & fast speed
前のページの英文を音声に合わせて音読してみましょう（音声は「通常」と「やや速」の2種類のスピードで流れます）。　Normal DL 036　CD1-36　Fast DL 037　CD1-37

Task 3 With blanks
空所に入る語句を考えながら，1度もつかえないで読めるようになるまで繰り返し音読してみましょう（空所には の数だけ単語が入ります）。

I'd like to introduce the most 1(ユニークな) pizza in New York City. It is the "pizza on pizza" at Vinnie's Pizzeria.

As you can see in this picture, a 2(より小さな) slice of pizza is 3(載せられた) on top of each pizza slice. Customers can choose their favorite 4(トッピング) from margherita, pepperoni, Hawaiian, Mexican, vegetarian, and vegan. The restaurant offers a 5(種類) of homemade crusts such as thin, thick, deep-dish, cheese-in crust, and even 6(生地) with sausages!

STEP 3 Output!

今度はあなたがプレゼンをする番です。同僚にユニークなピザを紹介しましょう。実在するピザでも，自分で想像したものでもかまいません。

1 Preparation

発表のためのメモを英語で書いてみましょう。

(toppings / crusts, etc.)

Selling points

実際にオリジナルのピザについて考えて紹介する

ISLA研究から見た
英語を「使う」ための授業デザイン

1.TBLTとは

2.PPPとは

3.まとめ

振り返りQuestion

TBLTとPPPの共通点は？
それぞれの利点と欠点は？

PPPとTBLTの利点と注意点

PPPの利点 「練習で学びながら使う」	TBLTの利点 「タスクで使いながら学ぶ」
・練習で身につけた表現をもとに、コミュニケーション活動に取り組みやすい。 ・特定の語彙・文法表現を繰り返し練習して定着させるので、自信につながる。	・正確さへの過度のこだわりを払拭できる。 ・学習者が必要と感じたときに、新しい言語表現に触れることができる。 ・具体的なタスクができるようになり、内発的動機づけが高まりやすい。

単調な繰り返しが多いと、
「練習＝丸暗記」に陥りがち

クラスのマネージメントには、
教師の技量および小さいクラスサイズが必要

TBLTとPPPの相違と共通点は？

TBLTとPPPは違いよりも、共通部分のほうが大きい。

<u>共通点</u>
ISLA研究によって、英語を使うことの重要性を強調

<u>相違点</u>
どのタイミングで語彙・文法指導を取り入れるか

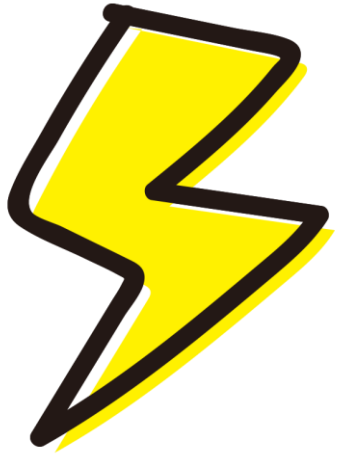
・先に教える→PPP
・途中や後で教える→TBLT

２つのアプローチを、どう授業に活かせば良いのか？

<u>原理に基づく折衷主義(Principled Ecleticism)</u>
既存の指導法を無批判に受け入れるのではなく、言語指導・学習の原理・原則を理解して、自らの教育環境に適した指導法を確立することを常に目指す。

教師、学生、教材、クラスサイズなどに合わせて、どうそれぞれの利点を活かせるか試行錯誤する必要がある

Revisit the gap: ISLA研究と英語教育実践のギャップ

研究・理論  授業・実践

研究と実践は無関係？

理論と実践を統合した英語授業の改善をするには？

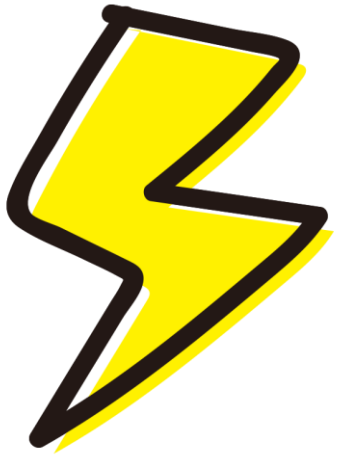
理論（抽象）と、実践（具体）を往復する

教材・授業の型

ISLA研究

研究・理論

一般性



授業実践

特殊性

ISLA研究から見た英語を「使う」ための授業デザイン

英語指導法を支えるISLAの原則（理論）と、具体的な教室での指導（実践）を往復することが、本当の意味での教師の成長と教育改善へ繋がる

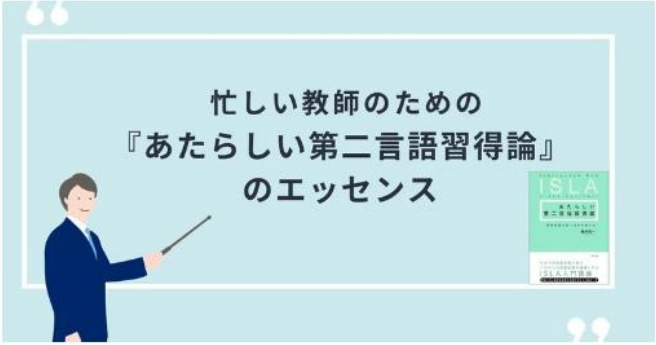
TBLTのアプローチ

- Learning by doing
- 先に英語を使ってみよう
- あとで正確さを高めよう

PPPのアプローチ

- Practice makes perfect.
- たくさん練習してスキルと自信を高めよう
- 覚えた表現が徐々に自分の言葉になる

オンラインNote記事：もっとISLA研究について学びたい・・・



忙しい教師のための『あたらしい第二言語習得論』のエッセンス

公開中　9本

『あたらしい第二言語習得論—英語指導の思い込みを変える』(研究社)のエッセンスも踏まえながら、SLA研究の知見から忙しい先生方でもすぐに実践できるヒントや、指導を見直すための考え…もっとみる

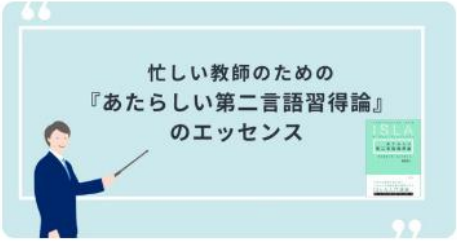
設定

運営しているクリエイター

鈴木祐一 | 早稲田大学 国際学術院・国際教養学部

記事　月別　ハッシュタグ

並び替え・削除



忙しい教師のための『あたらしい第二言語習得論』のエッセンス

皆さん、はじめまして。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。大学では、私の専門分野である第二言語…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2か月前

47

【第1回】なぜ文法を知っていても話せない？(Part 1)～インプットから…

「文法ルールはしっかり教えたはずなのに、なぜ生徒は話せるようにならないのだろう？」 先生方なら一度…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2か月前

9

【第2回】なぜ文法を知っていても話せない？(2)～アウトプットを通して…

前回（Part 1）では、私たちが文法ルールを「知っている」だけでは英語を話せるようにならない理由の一つ…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2か月前

16

【第3回】文法指導は必要か？—「文法解説+ドリルOnly」からの脱却

「文法指導は必要ないのでは？」 英語教育界では、時にこのような根本的な問いが投げかけられます。 特…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2か月前

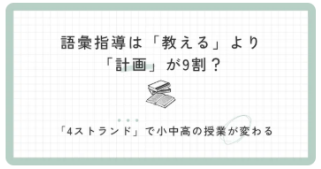
11

【第4回】単語は文脈から学べ？ ー英語教師が知っておきたい語彙学習…

皆さん、こんにちは。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。 今回の記事では、効果的な語彙指導・…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2か月前

16



【第5回】語彙指導は「教える」より「計画」が9割？—「4ストランド」で小中…

皆さん、こんにちは。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。 前回の記事では、語彙習得における「文…

鈴木祐一 | 早稲田大…
1か月前

12

【第6回】「発音は通じれば良い」？—明瞭性と理解性から考える発音指導

皆さん、こんにちは。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。 忙しい教師のための『あたらしい第二言語習…

鈴木祐一 | 早稲田大…
1か月前

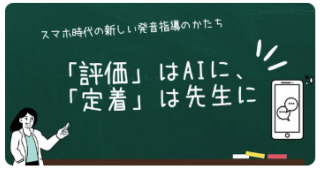
9

【第7回】生徒の英単語への「カナ振り」、どう向き合うべきか？

皆さん、こんにちは。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。 前回の記事では、発音指導の目標は「ネ…

鈴木祐一 | 早稲田大…
3週間前

14



【第8回】「評価」はAIに、「定着」は先生に—スマホ時代の新しい発音指…

皆さん、こんにちは。早稲田大学・国際教養学部の鈴木祐一です。 前回の記事では、生徒の英単語への「カ…

鈴木祐一 | 早稲田大…
2週間前

7

ISLA研究 x 英語教授法

<u>第1部　言語知識とスキルの指導法</u>

第1章　文法指導：学びのプロセスからどう教えるかを考える
第2章　語彙指導：優先順位を決めバランスを取る
第3章　発音・語用論指導

<u>第2部　学習者中心のアプローチにおける教師の役割</u>

第4章　インタラクションと協同学習
第5章　訂正フィードバック：学習者を起点に支援しよう
第6章　認知・非認知能力の個人差：個別最適化しよう
第7章　学習者心理の個人差：動機づけを多面的に理解しよう

<u>第3部　SLA 研究に基づく指導法とカリキュラム設計</u>

第8章　言語形式重視の指導法：「練習」で学びながら使う
第9章　意味重視の指導法：「タスク」で使いながら学ぶ
第10章　学習開始年齢と指導法

学部生・院生さん
へ書籍プレゼント
クイズ→